

人文学会報

No.73

2014. 3. 18

事務局 鹿児島市下伊敷一丁目52番1号 県立短期大学文学科研究室
鹿児島県立短期大学 人文学会

電話(〇九九)二二〇一―二二一

〈研究室だより〉

後期の授業から

木戸 裕子

日本語日本文学専攻2年生後期の「日本文学講義Ⅰ」では私自身の研究分野に近い内容で、かつ、高校の古文の時間で余り取り上げないものを題材にするようにしている。今年は久しぶりに『和漢朗詠集』を読むことにした。

『和漢朗詠集』は11世紀初め、ちょうど『源氏物語』が書かれたのと同じ時代に、藤原公任（ふじわらのきんとう）によって編纂された、和歌と漢詩（平安詩と唐詩）のアンソロジーである。今期の授業では、上巻を中心に春夏秋冬それぞれの季節を現代においても代表していると思われる自然や行事をテーマとした詩句を取り上げた。

学生には、この講義を受講して気になった問題について、授業中のミニレポートと期末のレポートで自由に記述してもらった。この機会に少し紹介したい。

『和漢朗詠集』中に春の詩歌が量的に多かったせいか、レポート提出の時期のせいか、何らかの形で「春」の詩歌に言及したレポートが多かった。また、和歌よりも漢詩について、特に収録数の多い白居易についてのレポートが目立った。なかでも、多くの学生が取り上げた詩句は、上巻「春夜」の白居易の句

灯を背けては共に憐れぶ深夜の月
花を踏んでは同じく惜しむ少年の春

と、「三月尽」の同じく白居易の句

春を留むるに春住まらず
春帰りて人寂寞たり
風を厭ふに風定まらず
風起こりて花蕭索たり

春の夜、友人と夜更けまで眺めた月、その翌朝散り敷いた花びらを踏みながら青春の日々を惜しむ心情、また、春という季節をどれほど惜しんでも留めることの出来ない寂しさ、それらは卒業を控えた二年生にとってまさにぴったりのだろう。平安時代の日本貴族にもっとも愛された白居易の詩は、現代の短大生にも共感を抱かせた。

この講義は南京農業大学からの交換留学生3名も受講していたが、白居易詩の影響についてまとめた留学生も、この「三月尽」の白居易の詩句を好きな作品

としてあげていた。やはり留学生生活を終える自分自身と重ね合わせるところがあったのだろうか。

昔から春は出会いと別れの季節、文学科での二年間の短大生活に別れを告げる卒業生の皆さんにすばらしい新しい出会いがありますように。

(文学科日本語日本文学専攻教授)



〈卒業にあたって〉

二年間を通して

文学科日本語日本文学専攻

岩 切 結 佳

卒業論文を提出し、テストも終え、卒業を目前にした今、鹿児島県立短期大学に入学してからの二年間を振り返ってみようと思います。

入学した当初は、大学というこれまでの義務教育とは違う専門的な学習に戸惑いもありました。しかし、さまざまな講義を受けていくうちに、これまで疑問を持っていたことがなかった部分までも疑うという姿勢の大切さを学び、たくさんの知識を手に入れました。

学生生活の中で私の一番記憶に残っているイベントは学祭です。日文専攻のみならずライندگانをすることになり、講義と講義の間の空いている時間に練習しました。日文全員で一致団結して一つのことをやり遂げるのは初めてだったので、より皆と親しくなれ、達成感も得ることができとても有意義な時間でした。

二年生になるとゼミわけがあり、私は入学前から『銀河鉄道の夜』を卒業論文で研究したいと思っていたため近代文学ゼミに入りました。自分が好きな本を研究できるというだけでとても嬉しかったのを覚えています。しかし、『銀河鉄道の夜』はとても有名でよく研究されてきたため、自分独自の新しい考えがなかなか浮かばず、研究テーマが定まらなくて苦労しました。当初予定していた研究

テーマとは全く異なった草稿研究というジャンルになり、今までと違う研究の仕方だったため少し不安でしたが、論文が形になって結論が出たときに「これでよかったんだ」と深く実感しました。

そして、卒業論文と同じく大変だったのが就職活動です。就職氷河期と言われる現代での就職活動を始める前は、漠然とした大きな不安がありました。その不安は無知故のものであると思います、まずどのような会社があるのか知るために合同企業説明会に行きました。施設内は自分と同じような格好をした人たちが溢れかえっていました。緊張しながらも企業ブースに行き、説明を聞きました。一通り説明が終わる質問コーナーに入ると、その業種の専門的な質問をする人が大勢いました。初めのうちはその雰囲気気後れしていましたが、ここにいる人たち全てが就活生という仲間であり、それと同時にライバルなのだということを認識し、自分のやり方で頑張ることを決意しました。

学生課の先生方も協力してくださいました。マナー指導やメイクアップ講座で

は社会人としての基本を学び、履歴書添削や面接指導では的確なアドバイスをしていただき、とても大きな支えとなりました。その中でも私は履歴書やエントリーシートに力を入れていました。履歴書は内容のバランスが良くなるように、高校時代にやっていた応援団と、小さい頃から続けてきた音楽と、家でやっている家事のことを内容に盛り込み、時間をかけて一文字ずつ丁寧に心を込めて書きました。またエントリーシートは企業に合わせて絵を書いたり色を塗ったりとなるべく目立つように書きました。この努力の結果、無事南日本銀行の内定をいただくことができました。

現在は卒業を控え、入行後に必要となる資格三つの内、残り一つとなった資格試験の勉強をしています。初めは取っ付き難かった金融関係の専門的な問題が、勉強していくうちに自分の知識として身につけてきて、社会人になるという実感が日に日に濃くなっています。働くことへの期待と不安もありますが、学生生活で得たことを活かし、日々勉強を怠らず邁進していきたいと思えます。二年間と

いう短い間でしたが、私にとってはとても大切なものを得ることの出来た時間でした。日文の皆、お世話になった先生方、本当にありがとうございました。



短大生活を振り返って

文学科日本語日本文学専攻

堀内 彩華

卒業を目前に短大生活二年間を振り返ってみると、あっという間に過ぎ去ったなと感じます。新しい環境に不安を募らせていた日々が懐かしく、しかし、昨日のこのように思えます。二年間というのは本当にあつという間で、その反面、小学校、中学校、高校とどの時点の生活よりもより濃い時間を過ごしまし

た。この二年間でたくさんの出会いがあり、経験があり、そして、成人も迎え、人としてより成長できたのではないかと思います。

短大生活はこれまでの学校生活とは全く違い、戸惑うことが多々ありました。一年生の頃は新しい生活に慣れることに必死だったように思います。私自身は教職科目を受講していましたので、更に忙しかったなと思っています。慣れない人々の中で慣れない授業を受けていたため、学校に行きたくないと思うこともありました。母に諭されながら学校へ行ったこともあります。良いこともあれば嫌なこともある日々の中で、無事卒業できた背景には、家族の支えが大きかったのだと今更ながら感謝の気持ちがあふれてきます。

大変な生活も慣れてくればとても楽しく、元々、国語が好きだからという理由で文転したくらいだったので授業にも興味を持って取り組むことができました。二年生になり、いよいよ将来のことを考えなくてはならなくなり、どんどん学生生活の終わりが近づいていると実感した

充実した二年間

文学科英語英文学専攻

小倉優花

ことを覚えていきます。四年制大学への編入を希望していましたが、駄目だったときのことを考え、不安でしょうがない日もありました。それはおそらく誰もが抱えていた悩みで、誰もが乗り越えてきた問題なのだと思います。そのような日々を乗り越えた先でつかんだ合格（鹿児島大学法文学部）はひとしおのもので、母と泣きながら抱き合い、喜びました。

二年生の後期は、やはり卒論に追われたことが一番記憶に残っています。友人と励ましあいながら完成させました。自分の研究をして意見をまとめる作業は楽しかったですし、友人たちの卒論について話を聞くことも楽しかったです。卒論が終わるといよいよ卒業の話題が増えてきて、進路について語る機会も増えてきました。こうしている今も卒業か感慨深く思います。それもこれも、支えてくださった周りの人々のおかげだと感じます。

短大生活で得たものは数多くあります。しかし、その中で最も価値のあるものは出会いだと私は思います。先生方や友人たちと出会えたことはまさに奇跡な

のではないかと思うからです。これまでの人生の中で様々な分岐点があり、生まれた場所が、遠い人だと北海道の人もいます。その中でこうして、出会えたこと、仲良くなれたことは本当に奇跡のようなことで、この出会いは一生の宝なのではないかと思えるくらい私にとっただけがえないものです。県短の日文の仲間に出会えてよかったですと感謝したいです。

また、これまで支えてくださった先生方、苦楽を共にし、資料室で語り合った仲間たちに、心からのありがとうを伝えたいと思います。この先の生活は皆それぞれバラバラで、県外にいつてしまう人もいます。なかなか会えなくなるかもしれないですが、それぞれが思い思いの生活をしていくのだと思います。ここ県短で過ごした日々はこれからの生活の糧となり、支えにもなるでしょう。学んだことを忘れずに、新しい日々を過ごしていきたいです。二年間本当にお世話になりました。



県短で過ごした二年間は今までのどの学校生活よりも充実し、有意義であり、楽しいものでした。入学式の日、英文の先生方の話を聞いてこれからの学校生活に期待を抱き、ワクワクしていたことを今でも思い出します。

最初のころは、90分という長い授業に少し戸惑ったりもしましたが、好きな英語を毎日学べる喜びも感じました。夏休みには二週間のハワイ研修に行きました。英語が使える環境で二週間も過ごせることが出来てとても良い勉強になりましたし、日本よりも空が高く、人も気候もあたたかいハワイはとても楽しかったです。そして一年生で一番思い出に残っている行事はやはり11月の文化祭です。私は文化祭で英文をまとめるリーダーを務めました。後期が始まる前からみんなで集まり、私たちは英文らしく英語の楽曲を使ったダンスを披露することに決め

ました。それからは絶対最優秀賞を獲ろう、という思いで放課後や休み時間に毎日のように練習をしました。舞台の転換の合間や映像、面白さなどにもこだわりの、みんなで工夫をして楽しい発表ができるように考えました。本番前にはみんなで揃いの紫色のパーカーも作り、気合十分で挑み、その結果、最優秀賞をいただくことができました。先生方や先輩方にも「今年の英文の発表はとてよかったです。」とお褒めの言葉をいただき本当に嬉しかったです。英文の団結力の強さ、みんなでひとつのことを成し遂げることに感動を強く感じました。

二年生になってからは就職活動、授業、アルバイト、そして自治会にも入ったので毎日がとても忙しく、目まぐるしく過ぎてゆきました。就職活動も最初のころは何社か落ちて、一時期就職活動を諦めかけていた時期もあったのですが、先生方の励ましや、熱心な指導のおかげで前期のうちに自分が希望とする会社に内定をもらうことが出来ました。秋には自治会の活動として文化祭の運営があり、一年生の時の文化祭の舞台に立つ立

場から、裏方で支える立場になりました。たくさんの人の前で喋ったり、業者さんと打ち合わせをしたり、ステージマネージャーをしたり、普通に学生生活を送っていたなら絶対に出来なかった貴重な経験をさせていただきました。二年生の締めくくりである卒業論文は、自治会の活動などに追われやや遅いスタートを切ってしまったのですが、先生のサポートもあり、自分が調べたことについての論文を書き上げることができたのでよかったです。

こうやって振り返ってみると本当に充実した二年間だったと思います。このまま県短で学生生活を続けていたいという気持ちもありますが、春からは社会人という新たなスタートに立ちます。県短で学んだことと、思い出を胸に社会人生活を頑張りたいと思います。

2年間を振り返って

文学科英語英文学専攻

小林 菜乃香

県立短期大学に入学して、早2年が経ち、あつという間に卒業を迎えました。私は長崎出身で、入学当初は土地にも慣れず、憂鬱な日々を過ごしていました。先生方や周りの友人に恵まれ、有意義な学生生活を送ることができました。特に私たち英語英文学専攻は非常に仲が良く、団結力の強いクラスでした。文化祭では授業の合間に練習を重ね、お揃いのパーカーも作り、見事最優秀賞を獲ることができました。1番の思い出です。

私は県短に入学を決めたときから編入学を希望しており、日々の授業も休むことなく、取り組みました。2年生になり、就職活動が始める友人が多くなりまりました。しかし、共に編入を目指す人も、就職を志す人も、進路は違っても、お互いに励まし合いながら、自らの目標に向かって頑張ることができたと思っています。教育実習など大変な時期もありまし



だが、いつも周りには先生方や友人がいて、私を支えてくれました。ほぼ毎日母と電話をし、離れていても支えてくれる家族がいることを改めて実感することができました。

初めは短大へ通っていることをあまり良く思っていなかったのですが、卒業を迎えた今は胸を張ってこの学校のことを話すことができます。高校の頃までは、ただ単に英語が好きなだけでしたが、英語の歴史や英文学、異文化理解を学び、より知識を深めることができました。それにより価値観が変化し、自分自身の考え方の幅も広がりました。たった2年間の短い期間でしたが、とても充実した濃い2年だったと思います。私にとってとても大切な時間です。

授業や日常生活、実習等の事前指導や編入試験の添削などいつも快く引き受けてくださった先生方、ありがとうございました。

英文のみんな、大好きです！ また会いたいです。

4月から私は佐賀大学に編入学し、さらに自身の知識力、精神力のアップをは

かりたいと思います。また新しい環境で、新しい仲間に出会うことと思えます。この2年間で習得したことを生かして編入後も頑張ります。



《編集後記》

実は、昨年七月に学内の電話番号が変更になり、「文学科の直通番号」というのもできています。が、誰が受話器を取るのか決まっていないので、従来どおりの大学の代表番号を題字下には書いておきます。

なお、今後『人文学会報』は鹿児島県立短期大学の文学科ホームページ(アドレスは <http://www.kkentan.ac.jp/lit/>)にも掲載する予定です。卒業後もしきどきチェックしてみてください。(望月)

2012年度 人文学会決算報告書

収 入

前年度繰越金	508,045
人文学会費(教員会費)	24,000
〃 (在学生会費)	67,000
預金利息	90
収入計	599,135

支 出

印刷費(「人文学会報」)	47,460
郵送費(『人文』)	12,880
消耗品費	2,672
支出計	63,012

次期繰越金 536,123

<平成25年度卒業研究標題>

文学科日本語日本文学専攻

氏名

卒業研究標題

《木戸ゼミ …… 日本文学・古典》

- 福里架菜 和歌からみる業平像についての研究
兼中亜希 蜻蛉日記中巻における独詠歌の集中について
堀内彩華 『紫式部日記』から見る紫式部と道長の関係性に関する研究
榎田有紗 末摘花の人物論 ―作中での役割について―
釜口胡乃 『源氏物語』朧月夜人物論 ―その行動と心情に着目して―
新屋ひかり 『堤中納言物語』 「虫めづる姫君」における姫君の異端性
福田美優 平安時代における陰陽師の役割と影響について

《竹本ゼミ …… 日本文学・近代》

- 西沙織 宮沢賢治の童話作品を原作とする絵本についての研究
渡辺千晴 『桜の森の満開の下』における支配関係についての研究
岩切結佳 『銀河鉄道の夜』の第一次稿から第四次稿における物語の変化
若松舞子 川端康成『古都』における場所と物語の関係について
溝脇飛華 徳富蘆花『不如帰』にみる結核のロマン化についての研究
女鹿野咲 夏目漱石『こころ』 ―先生はなぜ悩んだのか―
河野瑞希 「食」の描写から見る向田邦子の人物像
義山優佳 『注文の多い料理店』における立場の逆転について
篠原香南 芥川龍之介『蜘蛛の糸』 ―御釈迦様から読み解く『蜘蛛の糸』―

《土肥ゼミ …… 中国文学》

- 末吉翔子 六朝志怪小説における動物の報恩話の役割についての研究
高木玲伊奈 『竹取物語』と『搜神記』における羽衣の役割
林沙耶香 『三国志演義』における諸葛亮像と役割
瀬戸口萌子 『紅樓夢』における女性の言動と中国社会の女性について
町田菜津美 『桂庵和尚家法倭点』の訓読法の影響について

《望月ゼミ …… 日本語学、上代文学》

- 谷山えり 忍者はどのように話していたのか。
折田里美 大宮姫伝承についての考察
中隈瑞紀 「K a g r r a. 」の「和」についての考察

《楊ゼミ …… 日本語学、日本語教育学》

- 高山愛由実 同じ用途で使われるジャンケンや歌の地域差(方言) ―鹿児島県方言調査から―
俵積田知里 メディアを通して見る非言語コミュニケーション
鶴崎舞子 ブログにおける若者言葉の意味・機能についての研究
富永野々花 狂言から見ることばの変遷
山内美緒 鹿児島の若者の方言使用について ―「ダヨー」「ダカラヨー」「アーネ」を中心に―

<平成25年度卒業研究標題>

文学科英語英文学専攻

氏名

卒業研究標題

《英語学演習》（指導教員：久木田 美枝子）

Hiromi Ouchiyaama The Ideal Method for Japanese to Learn English
Yuka Kijima Acquisition of Correct Pronunciations by Learning Phonics
Nanoka Kobayashi Comparison of English Education in Japan and that in China and in Korea
Megumi Shimada The Honirific Expressions in English
Koyuki Suwahara The Differences in Pronunciations between Japanese-style English and Korean-style English
Minami Nakagawa English Education in Europe and in Japan

《英語学演習》（指導教員：遠峯 伸一郎）

石川 紗 織 対人関係と呼びかけ語の相関について
上 葉 葵 英語接尾辞と日本語俗語の関係
次 村 こころ 翻訳しにくい日本語
藤 本 奈々世 Mustにみられる内的要因と高い圧力について～『ハリー・ポッターと死の秘宝』を用いて～
吉 富 明日香 日英語のオノマトペ
渡 辺 瑞 希 REDにおける-ingと-in' の使い分けと音のアクセントの関係

《英米文学演習》（指導教員：轟 義昭）

赤 寄 有 加 映像作品『エマ』と『クルーレス』の比較研究
上 野 ま こ 『ナルニア国物語』の中のキリスト教
堀 口 真 季 C.ディケンズ『クリスマス・キャロル』の研究
米 永 英 二 E.M.フォスターと彼の作品の研究

《英米文学演習》（指導教員：フィリップ・アダメック）

Yuko Koge Should Japanese Practice Rules of Thumb for Speech Making?
Saaya Matsukubo Who Is the Boss? Examining the Changing Role of Fathers in American Sitcoms from Three Different Periods
Naoko Haraguchi Was Queen Victoria a Model Mother and Wife?
Mari Yokote Edible Jazz: The Story of Soul Food
Sumire Sakoda Should We Think about Minorities or Not? The Case of Same-Sex Marriage
Ai Kukita Follow the Strong Flow: The Power of Swing Jazz
Chikako Minetoma What Should We Say about Selfies?

《比較文化演習》（指導教員：中谷 彩一郎）

有 馬 沙 織 『ハリー・ポッター』から見る差別と対立
有 村 春 菜 日本とイギリスの結婚式の比較
今 村 美 穂 イタリアの四つの行事から見る日本の行事
大久保 美 沙 ビートルズとワンダイレクション
小 倉 優 花 NHKバラエティ番組「COOL JAPAN ～発掘かっこいいニッポン～」を通してみる日本
野 元 菜 那 絵本の世界：レオ・レオーニとなかえよしを
濱 村 茉里奈 古代ローマと日本の風呂の比較
村 永 愁 織 和菓子とフランス菓子の比較